

人権フォーラムで フランクフルト出店!



2月22日(土)鳴滝小学校において、人権フォーラムが開催されました。地域や人との交流を目的としたこのフォーラムでは、毎年人権関係団体が模擬店を出店しており、おいしい食べ物を通して人と人とのつながりをもつことができました。スタッフとして参加していただいた岸本さんから感想をいただきました。

今回はお手伝いとして人権フォーラム2014に参加させていただきました。ちゃんへんさんのパフォーマンス、人権講演を拝聴させていただきました。ちゃんへんさんの人権講演は建前だけではなく、差別やいじめ問題の本質を体験を基に話していただき、「コンプレックスを武器に」生きる事、様々な気づきを私にもたらしてくれました。

また、今回のイベントで「人権を学ぶ」ということは、私のような障がい児の児童デイサービスという福祉に従事する人間に必要

な事であると認識を新たにできました。障がいを持つ子ども達が差別・偏見・不自由の無い社会を実現する為に、私達指導員の積極的な人権学習への参加が不可欠であると実感しています。

児童デイサービスの指導員として、障がいを持つ子ども達と関わる中で、子ども達の人権を尊重し、子ども達が自分らしく生きる事ができる一助となるよう、これからも人権の事を積極的に学ぶとともに、泉南市民として、人権問題の解決に取り組んでいきたいと強く感じております。

こころ福祉
サービスセンター勤務
指導員 岸本 弘哉

きずな

第6号
2014年5月

<発行>
泉南市人権啓発
推進協議会

2013年5月以降、りんくう南浜の歩道上において3回続けて差別落書きが発見されました。早速、指定された場所に行くと、通報どおりの差別落書きがされていました。



このたび、人権啓発推進協議会では落書き防止のための看板を作成し、市内での啓発に努めています。

落書きを書いた人になりたい。どうしてこんな言葉や人を人がたくさん通る歩道にわざわざ書くんですか。この落書きを書いた後、あなたの胸は痛みませんでしたか。今年に国連で「世界人権宣言」が採択されて65年を迎えました。この「世界人権宣言」の第一条に次のようなことが書かれています。「私たちはみな生まれながらにして自由です。一人ひとりがかけがえのない人間であり、その値打ちも同じです。だから、たがいに良く考え、助けあわねばなりません。」と書かれています。人は、この世に神秘の

ボールをまどって現れます。その生まれてきた赤ちゃんが「あの人の子どもとして生まれたかったのに」とかいうことは決してあり得ません。でも、誰が産んだ赤ちゃんも、どこで生まれた赤ちゃんも、みんなが持って生まれたものです。それが「自由」です。それが「人権」なのです。人間が生まれてきたら、必ず持っている権利を、もし他人によって名誉を傷つけられたり、差別されたりしたとき、どのような悲しみと苦しみを味わうことでしょうか。今ここで私たちは、もう一度原点に帰って人が人を傷つけることなく、それらの行為の無情さ、浅はかさを反省し、前向きで明るい人生を送れるように心がけ、それによって幸せを味わいたいものです。

真鍋

校区の集い

今年も毎回楽しみにしていた人権啓発講演会が一丘小学校にもやってきました。毎年色々な催しを用意してくださり今年はこちらへんさんという世界的な有名パフォーマーをお迎えしての講演会となりました。半年前から準備を始め、PTAの役員として、会を盛り上げ成功させたと思います。一人でも多くの方に参加してもらいたい一心で何度もお手紙を書いたり、ポスターを貼ったりと宣伝に力を入れました。その成果もあつたのか、当日は生徒に加えて



ちゃんへんさんの
ジャグリング公演

大勢の保護者の方が集まってくれました。役員一同は勿論のこと、世界最高峰のパフォーマーにみんなが胸膨らませました。予想を遥かに越えたパフォーマンスと生い立ちから現在に至るプロセスを子ども達に分かりやすく講演頂き、夢をあきらめない熱いメッセージを送ってくださいました。そして偶然とも言えるべきか、当日はちゃんへんさんの28歳の誕生日と重なり子ども達が御礼と共にサプライズとして、花束とバースデイメッセージを用意してくれました。事前に役員と打ち合わせはしていま

したが、先生と子ども達で工夫してくれていた事に私達も感動し、ちゃんへんさんも伝わったのかとても喜んで頂けました。忘れられない誕生日の一つに加えて頂くことでもうれしく思います。

こうして幕を閉じましたが、毎年人権について考える時間を作ってください、もつともっと大勢の人が関心をもってもらえる様、情報を発信して頂き、私も今後も参加して熱い思いをしたいと思えます。

(一丘小学校PTA
会長 大池 英子)

校区の集いに参加してくれた砂川小学校の3人の子どもさんから、「もう一度ちゃんへんさんに会いたい。何かお手伝いしたい。」と連絡があり、人権フォーラムに司会者として参加・お手伝いしていただきました。

編集後記

今、語られ訴えられる人権は、多様化して一様に捉えることは難しくなっています。特に人権フォーラムで「失敗しない人間より、あきらめない人間に僕はなる」と多様化した人権侵害を熱く語った、ちゃんへんさんの講演は、聴く人の心を打ち、私は人権活動を、より真剣に取り組む気持ちにさせられました。人をやる気ではなく、感動と学ぼうとする。自身の体験、なごり、励み、努力、理想理念を語る。自分物語として語り、より良い新聞づくりに励み、より良い報告ではない。編集員一同、ご指導ご協力のほど、よろしくお願いします。

(企画実行委員会 編集員)

出会いからつながりへ...



2013年度の校区の集いは、7校区で4つの内容が行われました。どの校区も多くのステキな出会いがありました。

校区の集いでいくつかのエピソードについて紹介します。

子ども達に分かりやすく講演頂き、夢をあきらめない熱いメッセージを送ってくださいました。そして偶然とも言えるべきか、当日はちゃんへんさんの28歳の誕生日と重なり子ども達が御礼と共にサプライズとして、花束とバースデイメッセージを用意してくれました。事前に役員と打ち合わせはしていま



人権フォーラムで司会を
がんばってくれました

また榊井校区では、2013年度より榊井小学校PTAと共催で、日曜参観日に校区の集いを開催することにになりました。役員さんの中には人権と一緒に事業をすると「難しくなるのでは...。子どもたちは理解できるのか...。」と思

っていたようです。疑問や意見には一つひとつ丁寧に答え、企画についても、PTAさんに提案していただき、無事開催することができました。700名を超える榊井小学校全校児童、そして200名を超える保護者や地域のみなさんの笑い声が体育館いっぱいに広がりました。笑福亭鶴笑さんの公演もさることながら、榊井小学校PTAさんと共催できたことで充実した集いになりました。

(事務局)

人権週間イオンコンサート

11月23日、イオンモールりんくう泉南において、JERRY BEANS (ジェリービーンズ) & yokko (ヨッコ) によるコンサートが行われました。

小中学校時代にひきこもり経験のあるメンバーは、当時の想いを歌と語りで私たちに伝えてくれました。当日多くの参加者の中から、次のような感想をいただきました。



JERRY BEANS&yokko

人権週間のイベントで JERRY BEANS というバンドと yokko ちゃんに出会いました。彼らの歌の中には「そのままがいいんだよ」「大丈夫」と、私を元気にココロもほっとさせてくれる言葉がたくさん散りばめられていて、その歌をやさしい声と素敵な笑顔でうたってくれました。私のように会場にいた人もあったかい空気を感じて聴いていた

ように思います。会場の雰囲気が変わっていくのがわかりました。私も含め、何かしら子どもの頃に思いあたることもあり、彼らの歌や活動に共感したんだと思います。彼らはみんなが笑顔になれる時間が少しでも増えたらと願って演奏しているそうです。ライブの後、私のココロの中の深い所に感じたあたたかい「何か」を一人でも多くの人にも感じてもらいたい。そして「出会いは何かを変えたり、人をつなぐきっかけになるんだよ。」と私も伝えていきたいと思えました。

〈雄信校区 中谷 雅美〉

人権作品展

毎年人権週間に、イオンモールりんくう泉南において人権作品展を開催しています。今年もたくさん作品が集まりました。

作品展開催中に浜保育所の子どもたちが、寒い中歩いて見に来てくれました。最初に目に入ってきたのが自分たちの作品。「先生、あったよ。」「わあー、大きなー。」と言いながら、みんなで作った作品をゆっくり見ていました。他の作品もじっくり見てくれました。



人権の絵をイオンまで歩いて見に行ってきました。他の保育所や幼稚園、小学校のおともたちも素敵な作品をいっしょけんめい描いて、すばらしいな—と思いました。

北朝鮮拉致問題の「めぐみ」というとても悲しいストーリーの映画を見せてもらいました。子どもたちから「かわいそう」という声が出ていました。シーンとして静かに見る事ができていました。

風船と折り紙をいただきました。風が強くて寒かったけど、歩いたらほかほかして気持ちよかったです。

〈浜保育所 職員〉



作品展を見に行った様子を、保護者のために保育所の玄関にはりだしてくださいました。

合わせ、時にはだれかに手伝わってもらいながら、大きな夢に向かって歩んでほしいと思います。(事務局)

ABCまつり たくさんのお会がありました

4月29日(祝)、泉南市立体育館において、ABCまつりが開催され、私たち人権啓発推進協議会も初めて参加させていただきました。



人権啓発推進協議会では、より多くの方々に参加していただけるよう、映画上映やコンサート、講演会、駅頭啓発など様々な活動を行っています。

今回ABCまつりに参加するきっかけは、メンバーとの話し合いの中で生まれました。「もっとたくさんの方に人権にふれてほしい。」「これまで人権に関心なかった方と出会えたら。」というように思いを常日頃持っていました。その結果、子どもからおとなまで多くの方が参加するABCまつりに出席し、私たちの活動や人権について知っていただくというこ

とになりました。当日はあいにくの雨模様。参加者が少ないかと心配しましたが、12時のスタートと同時に体育館の各ブースでは多くの方々にぎわいました。



人権擁護委員による紙芝居

私たちは日頃の活動の様子をまとめたパネル展示や、「人権キャラクターのまもる君&あゆみちゃん」と一緒に、6月8日(日)憲法週間&男女共同参画週間「市民の集い」で上映する映画「人生、いろどり」の宣伝を行いました。また、いつも一緒に活動している人権擁護委員による紙芝居を行い、会場は満員となりました。

今回のABCまつりをきっかけに、少しでも多くの方々に「人権は私たち一人ひとりがもっている幸せに生きる権利」ということを知っていただきたいと思っています。(事務局)

家庭のだんらん

すきやきなべ
ねぎの下から
肉のかたまりがでた
みんなが そこだけよけて
おかあさんが思い切って
おとうちゃんのちゃんに
いれた
おとうさんがまた
ぼくにはさんでくれた
下をむいたまま
大きなかたまりをほおぼった
のどにつかえて
なみだがでそうになった

青木ひろし詩集

「子供の風景」より



本を読んでいたら「すきやきなべ」という詩が目にとまりました。一つの鍋を家族で囲んで食事をしていくというこの家庭でもみられる情景です。あじわってよんでみると、こころをうたれるものがあります。

ねぎの下から出たひとかたまりの肉をめぐって、家族みんながお互いに思いやり、気を遣いあっている様子が表現されています。



「のどにつかえて」これだけが、「なみだが出そうになった」原因でしょうか。「おとうちゃんがまたはさんでくれた」ので、おとうちゃんのこころづかいに感動したこともなみだの中に含まれているように思われます。

ここに、家庭のだんらんがあります。人間が生まれ、育つところはまず、家庭です。社会の変化につれて、家庭のようすも変わっていくでしょう。しかし、この詩のように家庭のほのぼのとした温かいだんらんは大切にしていきたいと思えます。

(砂川校区 清水 真治)